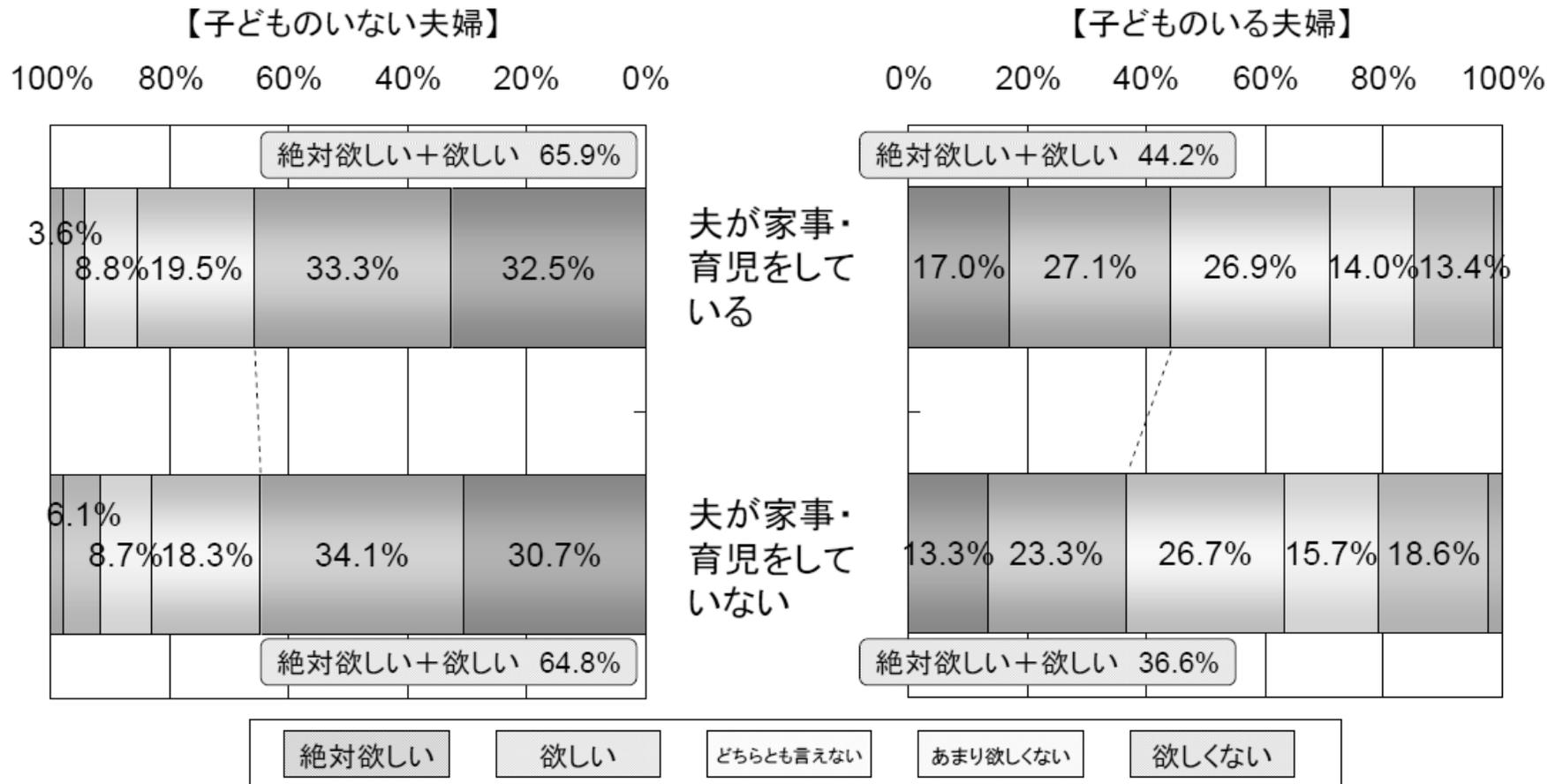


夫の家事・育児分担と妻の出産意欲

夫の家事・育児負担度が高いほど、妻の出産意欲が高い。



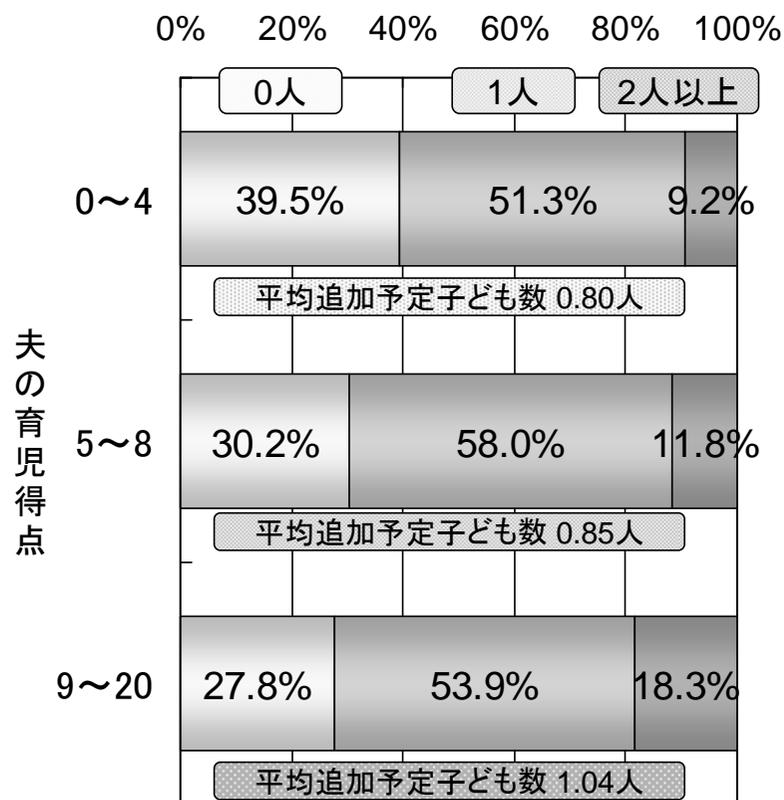
資料:厚生労働省「第1回21世紀成年者縦断調査」(2002年)

夫の家事・育児分担と妻の出産意欲、就労継続

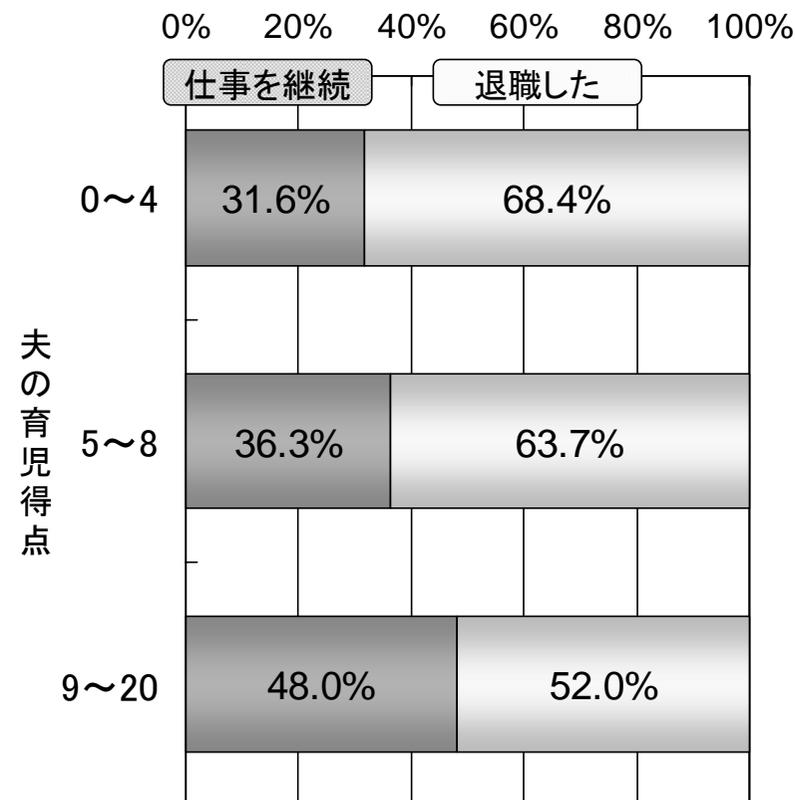
夫の育児得点が高いほど、追加子ども予定数が多く、また、第一子出産時の妻の就業継続率が高い。

夫の家事・育児分担と妻の出産意欲、就労継続

現在子ども一人の夫婦の追加予定子ども数



第一子出産時の妻の就業継続率

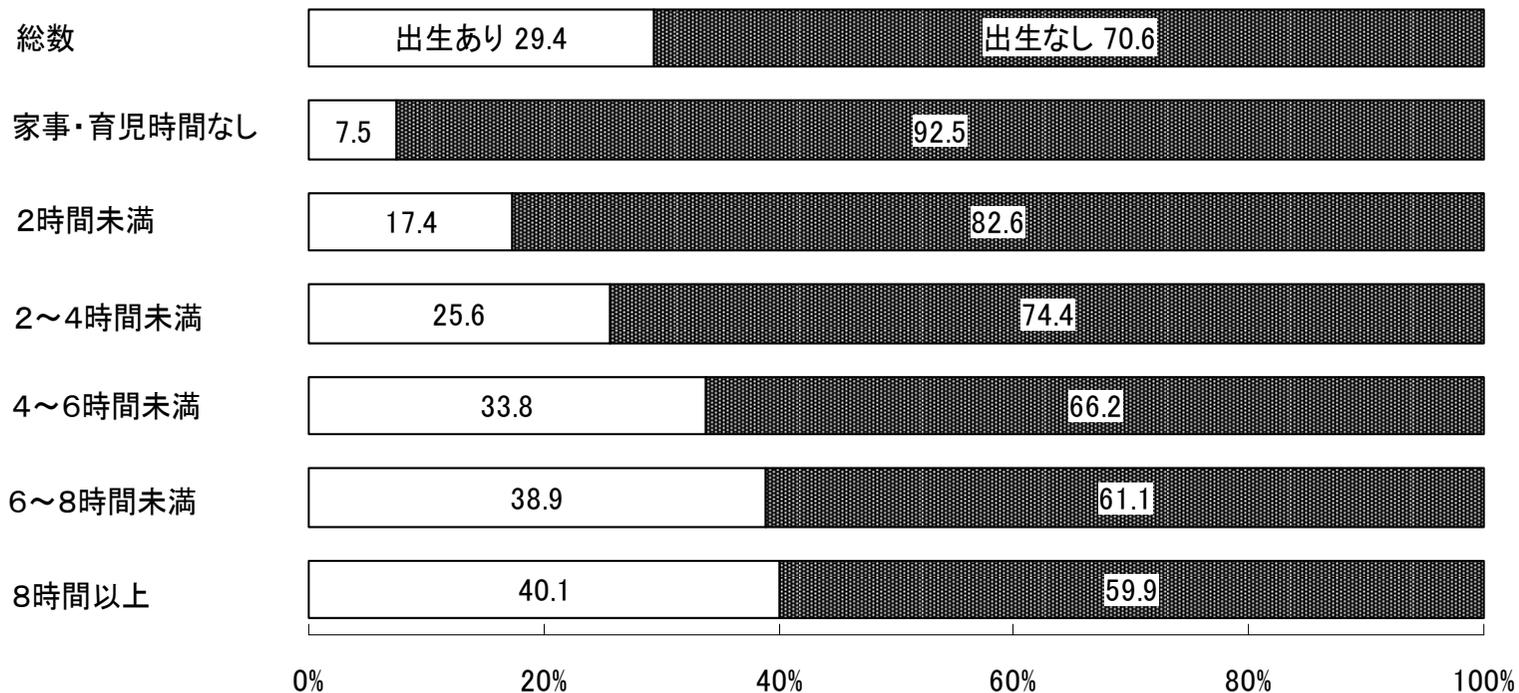


(注)「夫の育児得点」は、「遊び相手をする」、「風呂に入れる」、「食事をさせる」、「寝かしつける」、「おむつを替える」の領域別に、「月1～2回」(1点)、「週1～2回」(2点)、「週3～4回」(3点)、「毎日・毎回」(4点)、「やらない」(0点)とし、5領域の得点を合算したもの

資料：国立社会保障・人口問題研究所「第3回全国家庭動向調査」(2005年)

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみたこの4年間の第2子以降の出生の状況

夫の家事・育児時間が長いほど、第2子以降の出生割合が高い。



注:1) 集計対象は、①または②に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。

① 第1回から第5回まで双方から回答を得られている夫婦

② 第1回に独身で第4回までの間に結婚し、結婚後第5回まで双方から回答を得られている夫婦

2) 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前の、「出生なし」は第4回の状況である。

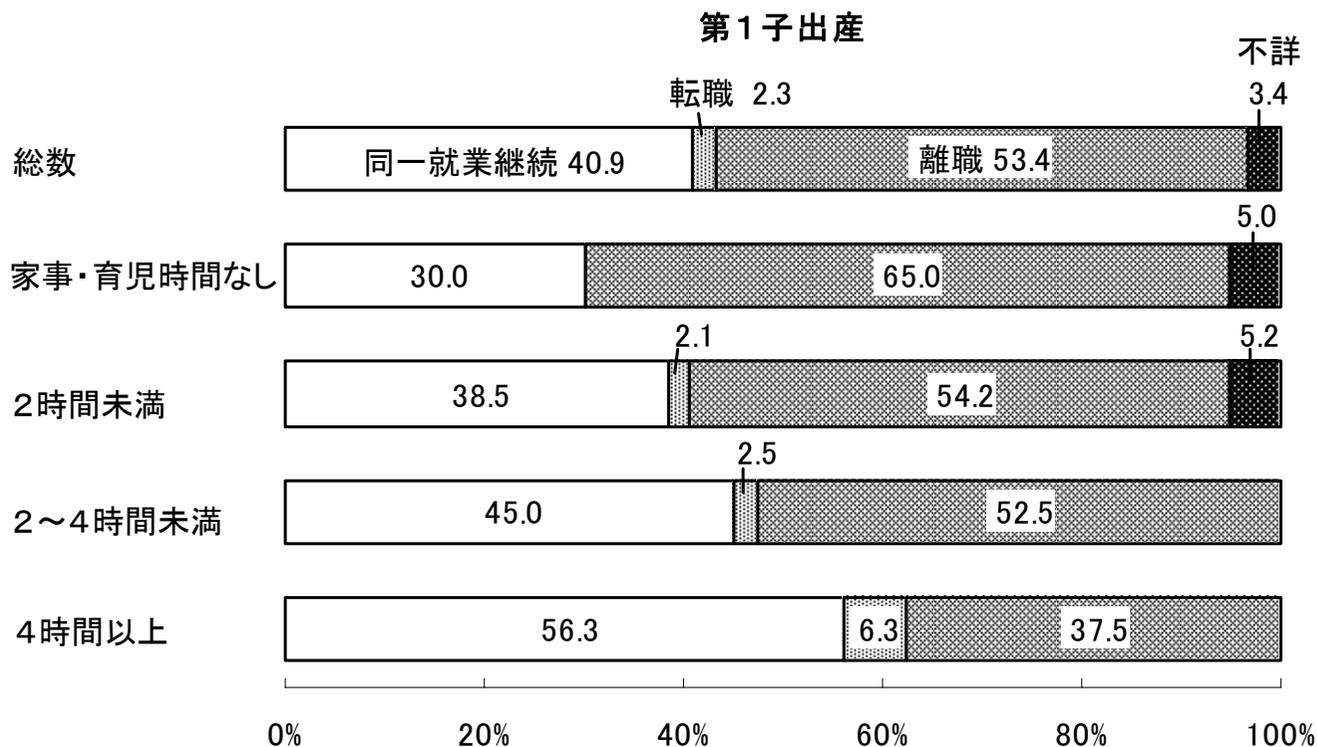
3) 4年間で2人以上の出生ありの場合は、末子について計上している。

4) 総数には、家事・育児時間不詳を含む。

出典:厚生労働省「第5回21世紀成年者縦断調査」(2007年)

子どもがいる夫婦の夫の休日の家事・育児時間別にみた妻の就業継続の有無

夫の家事・育児時間が長いほど、第1子出産後の妻の就業継続割合が高い。



注1:集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当するこの4年間に子どもが生まれた夫婦である。

①第1回から第5回まで双方から回答を得られている夫婦

②第1回に独身で第4回までの間に結婚し、結婚後第5回まで双方から回答を得られている夫婦

③出産前に妻が仕事ありであった夫婦

注2:総数には、家事・育児時間不詳を含む。

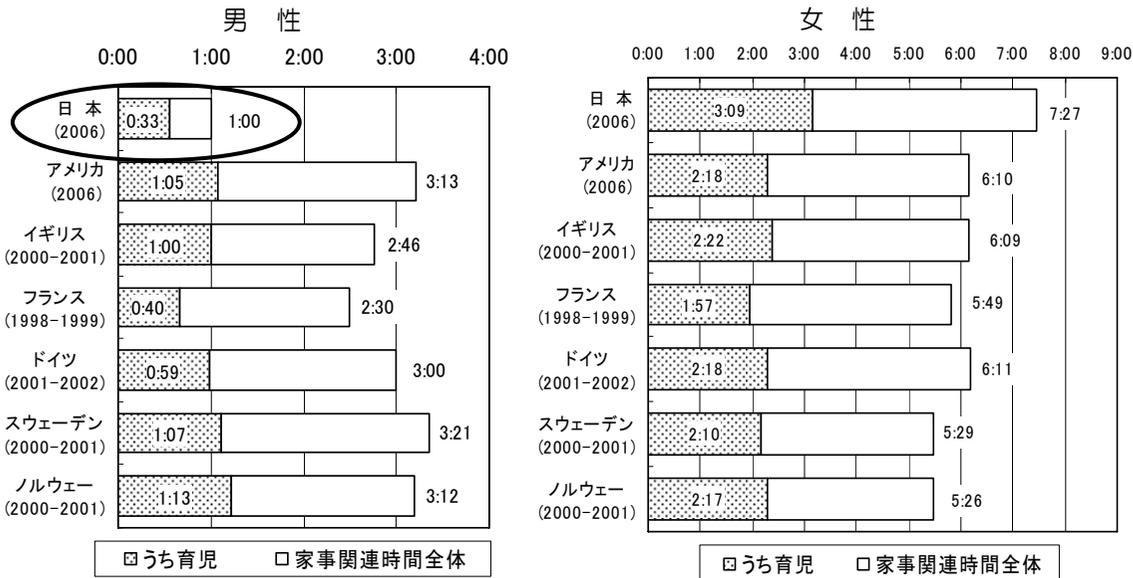
出典:厚生労働省「第5回21世紀成年者縦断調査」(2007年)

父親の家事・育児時間等

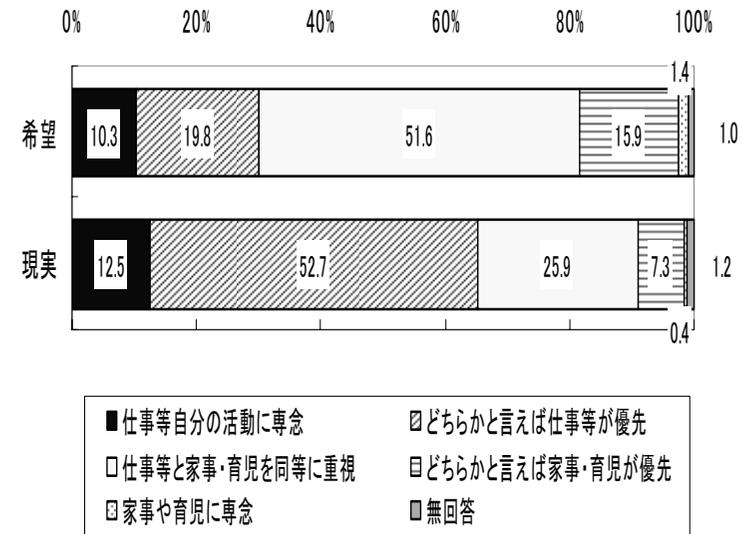
日本人男性の家事・育児時間は、非常に短い。

未就学児の父親は、子育てと仕事を同様に重視したいと希望しているが、現実には仕事を優先。

6歳未満児のいる男女の育児、家事関連時間(週全体)



父親の子育ての優先度



(n = 1,765)

注: 各国調査で行われた調査から、家事関連時間(日本:「家事」、「介護・看護」、「育児」、「買い物」の合計、アメリカ:”Household activities”, ”Purchasing goods and services”, ”Caring for and helping household members”, ”Caring for and helping non-household members”の合計、欧州:”Domestic Work”)と、その中の育児(Childcare)の時間を比較した。

出典: Eurostat “How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men” (2004)、Bureau of Labor Statistics of the U.S. ”America Time-Use Survey Summary” (2006)、総務省「社会生活基本調査」(平成18年)

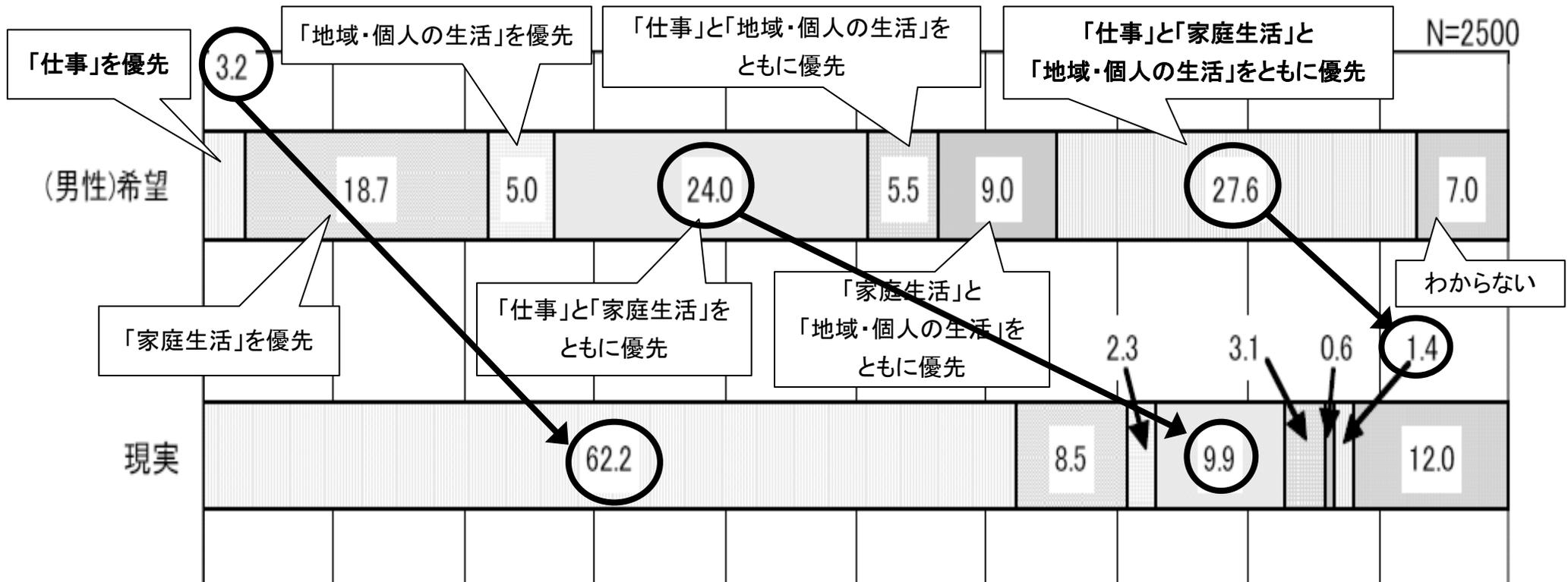
調査対象: 未就学児を持つ父親

出典: UFJ総合研究所「子育て支援策等に関する調査研究報告書」(平成15年)

ワーク・ライフ・バランスの希望と現実

3割近くの男性が「仕事」・「家庭生活」・「地域・個人の生活」をともに優先させたいと希望しているにもかかわらず、現実には6割以上の方が仕事を優先せざるを得ない状況。

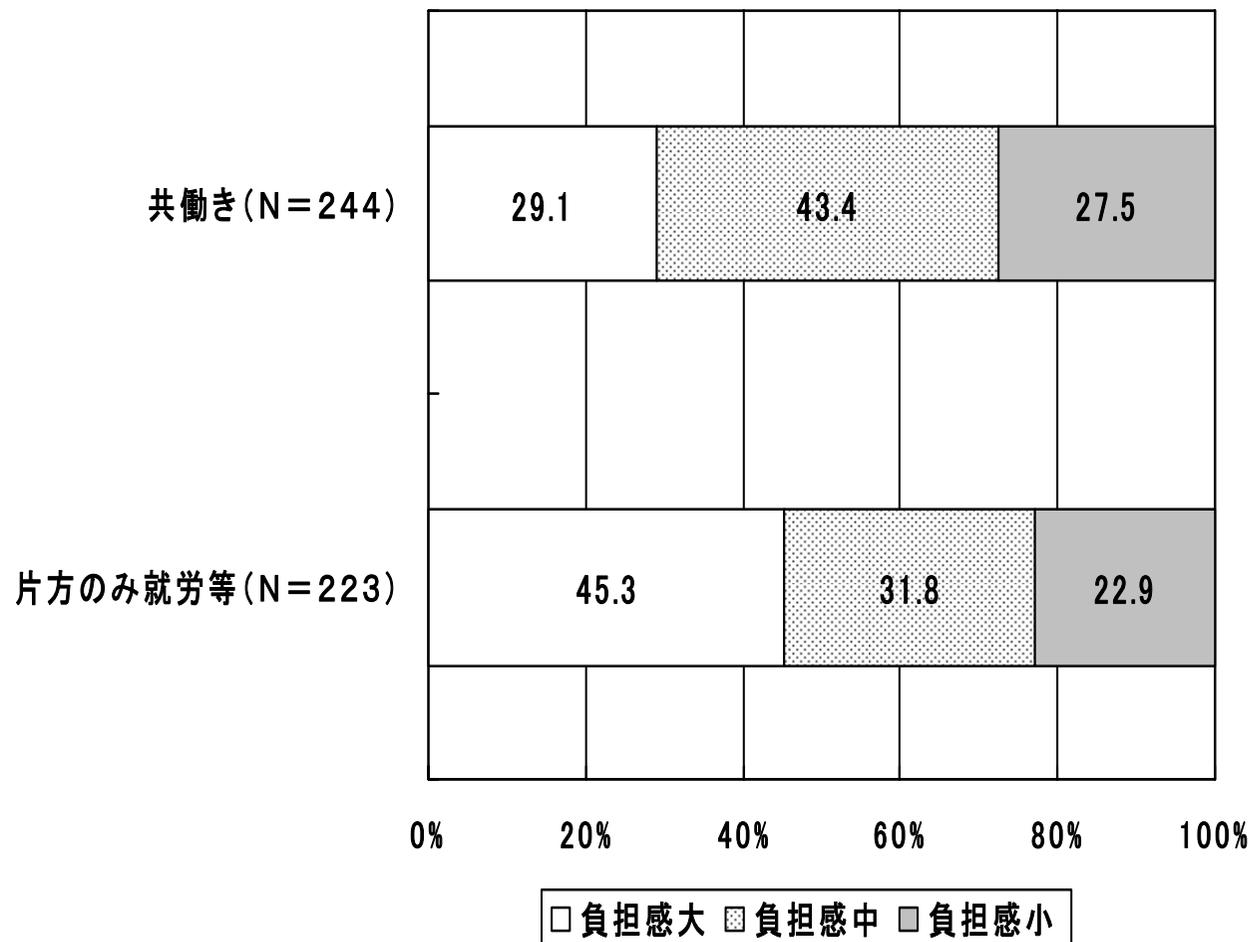
(図1-2) 生活の中での「仕事」、「家庭生活」、「地域・個人の生活」の優先度（性別）



注1: 調査対象は全国20歳以上60歳未満の男女2,500人
 注2: 調査方法は調査会社の登録モニターに対するインターネット調査

子育てをしている女性の負担感

子育てをしている女性の負担感は、専業主婦家庭等の方が高い。

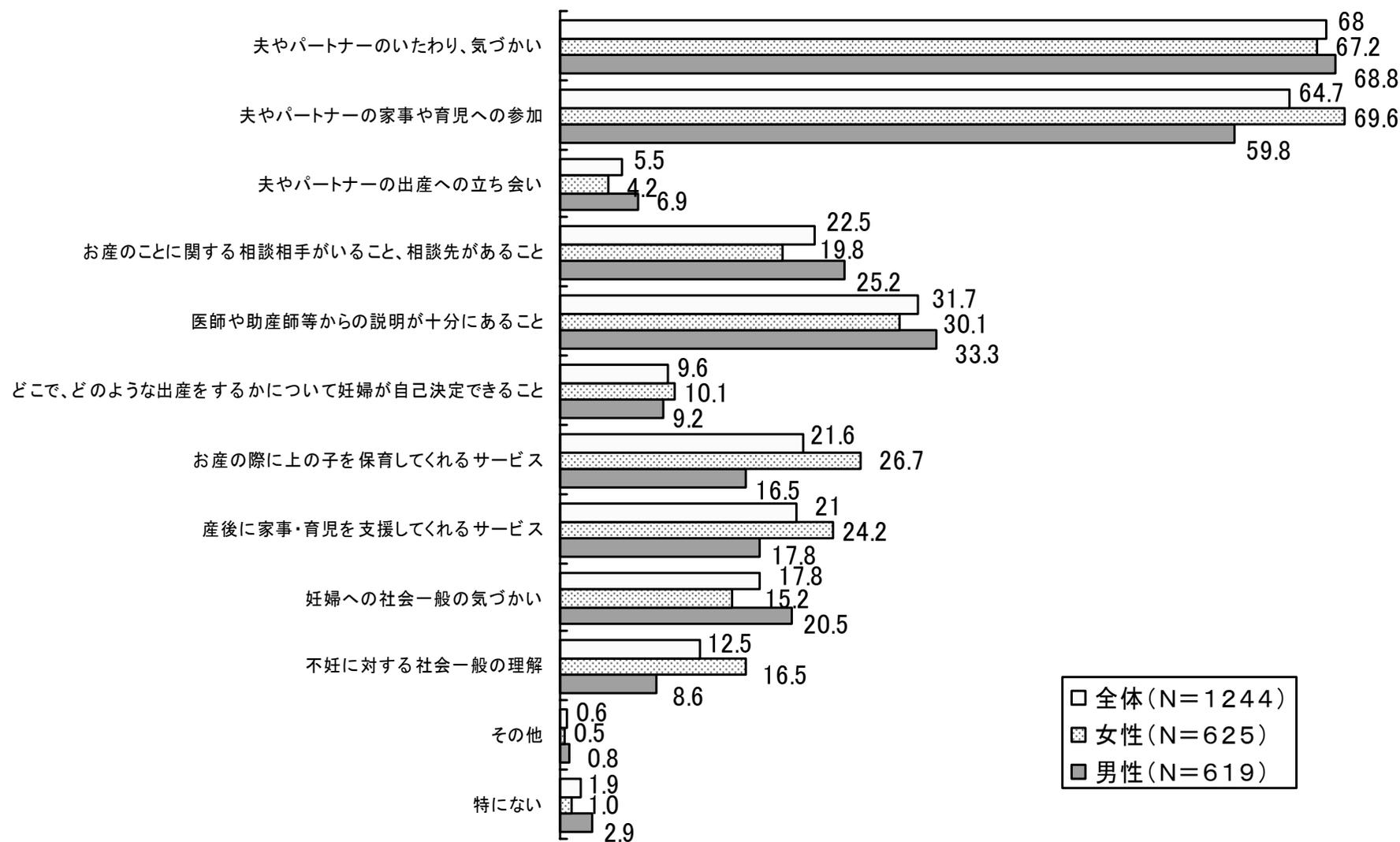


注: 調査対象は「0~15歳の子どもを持つ女性」

出典: (財)こども未来財団「子育てに関する意識調査」(平成12年度)

妊娠や出産に関して重要と思われること

妊娠や出産に関して重要なのは、夫の気遣いと、家事や育児への参加との声が多い。



注：調査対象は「子育て層（高校生までの子どもを持つ男女）」 出典：(財)こども未来財団「子育てに関する意識調査」(平成15年度)

両立支援制度の利用意向等

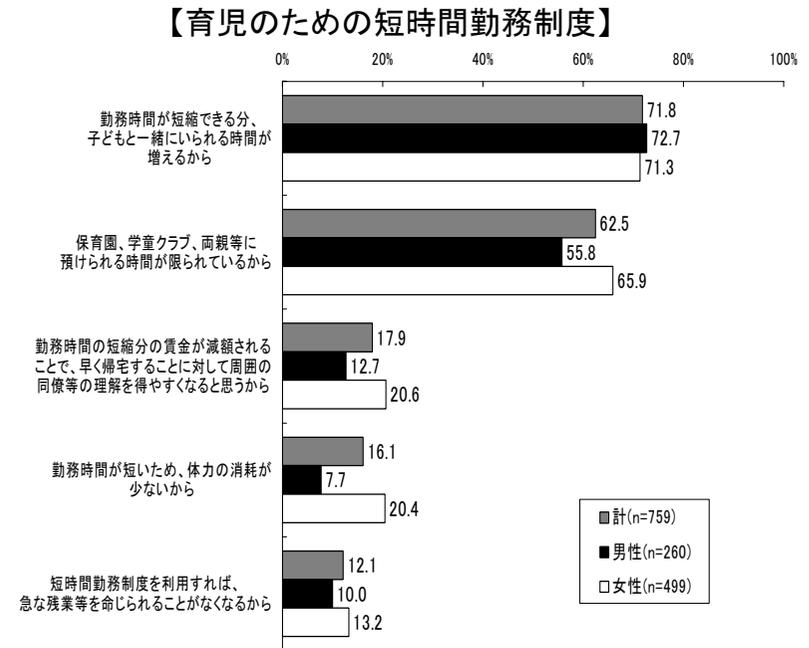
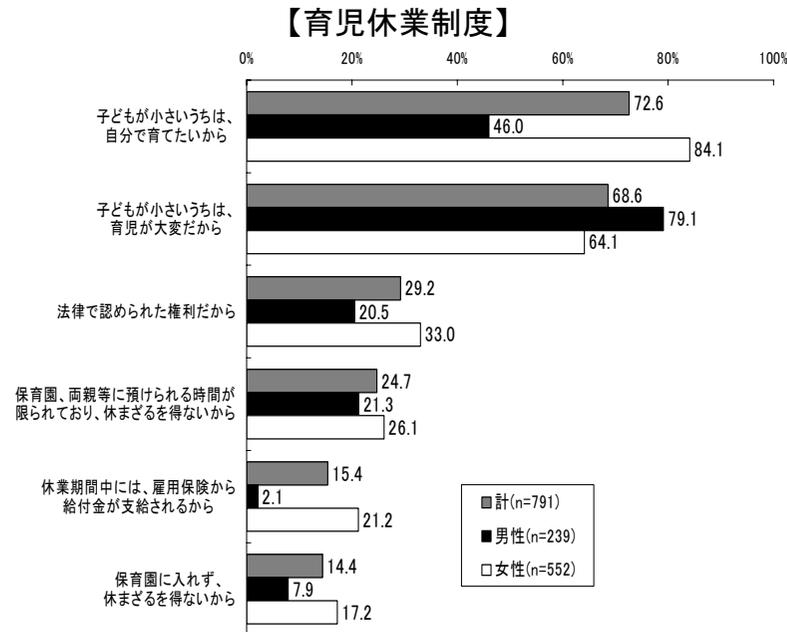
育児休業制度や短時間勤務制度を利用したいという男性は3割を超える。

両立支援制度の利用意向(従業員調査)

	全体	子どもあり	男性		女性	
			全体	子どもあり	全体	子どもあり
調査数(n)	1553	1104	752	589	801	515
育児休業制度	50.9	50.0	31.8	33.1	68.9	69.3
育児のための短時間勤務制度	48.9	48.8	34.6	35.1	62.3	64.5

注: 育児休業制度については「利用したいと思う」、育児のための短時間勤務制度については「現在利用している」・「利用したいと思う」を合わせた割合。

制度を利用したい理由(従業員調査)



注1: 各制度を「利用したいと思う」と回答した従業員について。

注2: 複数回答。「その他」、「わからない」、「無回答」は表示していない。

出典: ニッセイ基礎研究所「今後の仕事と家庭の両立支援に関する調査」(平成20年)